24歳

駆け出し

鳥取県倉吉市立西郷小学校　松本勝男

24歳のとき私は何をしていたのだろうか。
新採用の年ではなかっただろうか。
私も年頃であった、若くてかわいらしい私好みの女性（家内）とデートに花を咲かせていた時期であった。

1　新卒日記

日記は描写型で書くとおもしろい。

日々の出来事が赤裸々に綴られている。
向山氏の若き日のひとこまが散見でき楽しい。
かつて、多くの実践者が通ってきた。若くて新鮮な事実がそこには存在する。
日記をつけることで客観的に自分を認識し、反省し、次の実践につなげることができる。
それが楽しいのである。
言葉がべらんめえで威勢がいい。江戸っ子そのものである。
また、小さな発見を大事にしているところがいい。
いや、若き向山氏には、重大事件なのである
楽しいがぎりである。

◇こどものストライキ起こる　　6月20日
昼休みのチャイムがなった。一緒に遊んでいた。子どもたちに
「さあ、教室に入りなさい。」
と、追いたてるように言った。
遊びざかりの3年生、昼休みの20分じゃあ動きたりない。
「先生もっと遊ぼう。」「遊ぼう。」
てんでに、ガヤガヤやっていっこうに教室に行くけはいがない。
俺が前に「いつか遊んでやる」と、いったのをたてにとってせめたてる。

「遊ばないと、教室へ入らないから」
なだめたり、すかしたり、おどしたりするが、数をたのむ敵は全然平気なようす。
が、先生にとっては大事件なのである。
20分の遊びで疲れ切っている俺は、ついにかんしゃくが爆発。
「教室に入らないなら、そうやっていろ！！」
一言どなって、ふてくされた顔で教室へもどった。俺のあまりのけんまくにおどろいたのか、半分の20名はいっしょにもどってきた。中には、俺より早く教室へもどって、席につく子もいる。こういう、小まわりのきくのは大嫌いだから、よけいに腹が立ってプンプンする。(略)
「教室へ入れよ！」(略)
「いいかあ、先生がかんかんになっているっていってもいいし、何をいってもかまわないから、同じ班の人をつれてこい。」(略)
「よーし、お前達のお母さんを呼びだすからな。そうやっていろ。いやなら今のうちに中へ入れ。」(略)
「おい、もう、いいかげんに中に入ってくれよ。」(略)

日記を抜粋した。
若き向山氏のいうことをきかない子どもたちの様子が書かれている。
実に、観察が細やかでするどい。
小説でも読んでいるような気になる。
会話がたくさんあり、周囲の状況が説明してある。

日記にはロマンチックな向山氏の青春が、弾け、躍動しているのである。

2　詩集『森ケ崎の子ら』

詩は会話を入れると臨場感が増す。

おかあさん

中嶋保栄

私の
おかあさん
にらみつけて
おしりをひっぱたく
とても、ひりひりしていたい

あとでおしりをみてみると
おかあさんの
　手のあとが赤く
あざになって、のこっている。
私が
「おかあさん　あたまくるってる。」
　　というと
「うるさい。」
　　といって
また　おしりを
おもいっきりぶつ
とても
　ひりひりして
　また赤く
あざがついた

子どもたちが一所懸命書いた。
一つ一つのことが、かわいらしく表現されている。
タイトルも公害、先生のこと、そくせき焼きそば、インフルエンザ、えんとつ、ラーメン など
身近なことが中心だ。
イラストを後ろに書いている。
これがまたいい。
楽しさが倍増する。

おかあさんの詩は、改行を自由に行ってる。
これが、リズム感を生むのである。

3　教生日記

僕は、子どもとかくとうしながら、ごつごつやるようなそんな授業をしていきたい。

◇9月21日（木）田園調布小学校
3年生の教材でもこれだけの種類があるのかと驚いた。授業は極めて華麗であった。

授業そのものは、なんの障害もなく、きれいに流れていった。指導案のままに。
ぼくはいろいろなことを学んだ。とくに教材研究の深さというものを。
しかし、授業そのものは好きではない。
僕は、子どもとかくとうしながらごつごつやるようなそんな授業をしていきたい。
ものすごく抽象的だけど、そうした授業をぼくはしていきたい。
子どものすべてと僕のすべてが対決していくような。

◇本日をもって３週間の実習生活を終わる。
子どもたちが帰った放課後
一人教生生活のあとかたづけををする。
何故か、何故だか、涙だけがほほをつたわる。
（略）
道徳の時間、授業中うるさくてうるさくて困る子どもを５、６人おこったとき、ある子どもはいった。
「先生！！　あの人たちだけをおこるのは不公平です。」
ぼくはこのことばを忘れない。決して忘れない。
あのくいいるように心の奥底までせまってきた瞳と共に。
静かな教室の中で
秋雨にぬれた僕の魂がつくねんとぬれそぼちていた。

青年向山氏がどのような考えで、どう行動したのか。
青年教師として生きようとする向山氏の真摯な生きざまを感じることができる。
自己の考えをきちんと書き、情景描写が巧みである。
子どもとともに懸命に生活した様子が描かれている。

◇１　板書の内容をはっきり考えておくこと。
２　もう少しゆっくりしゃべること。
３　指導案をきちんと書くこと。

実習での反省点として挙げていた。
青年向山氏の当時の授業の様子がわかりそうな気がする。
ともかく、文章から熱気が感じられ、その中に引き込まれる。

松本勝男（まつもとかつお）＝法則化サークル　山陰なしの会